

平成30年1月31日
日本原子力発電株式会社

敦賀発電所 低レベル放射性廃棄物搬出設備の 放射能測定プログラムの不具合について（続報）

当社は、敦賀発電所に設置している低レベル放射性廃棄物搬出設備（以下、当該設備という。）について、プログラムの不具合※¹により、適切な放射能濃度が測定されていない可能性があるとの連絡をメーカーから受けました。

このため、過去に当該設備を使用して日本原燃株式会社に搬出した低レベル放射性廃棄物（以下、廃棄体という。）を調査したところ、同様の不具合が発生した廃棄体が86本あることを確認しました。

これらの廃棄体及びデータが残っていない723本の廃棄体の合計809本について、プログラムの不具合の影響を受けたことを前提として保守的に試算した結果、埋設基準を満足していることを確認しています。

（平成29年8月7日お知らせ済み）

その後の詳細調査で同様な不具合が発生した廃棄体は、最終的に88本となり、データが残っていない723本を含む合計811本となりました。この内、最も厳しい条件の廃棄体※²について詳細に評価を行った結果、埋設基準を満足していることを確認しました。

また、放射能濃度が適切に測定されなかった原因を調査した結果、測定終了時に、実際の測定器は停止しているものの、内部のプログラムが機器の状態を「測定完了」と処理するまでに、ごく僅かな時間差が生じることから、この間に別に動作しているデータ取込み用計算機のプログラム処理が重なった場合、実際には測定が完了しているにもかかわらず、計算機が「測定中」と誤認識し、データを保存しないまま、測定器は次の測定を開始することが分かりました。

今後、当該設備のプログラムをデータが保存されないまま進行しないように修正します。

※1：測定したデータが保存されないままプログラムが進行し、一部の廃棄体の放射エネルギーが少なめに評価された状態になっていること。

※2：埋設基準に対して、放射能濃度の裕度が最も低いと見込まれる廃棄体。

以上